

暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして

みんなが



たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち

市会議員団控入室 TEL740-1111 (内線4020)

直通FAX759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ

http://kurodamich.exblog.jp

ごみ戸別収集

中期展望しモデル地区設置を 必要な人へサポート体制拡大も

9月議会 ごみ、虐待、福祉窓口 3つのテーマで討論

9月議会で私(黒田)は3つのテーマで討論。「ごみの戸別収集」問題は「たんぽぽだより」7月特集号でお知らせしましたが、今回さらに一歩前に進める提起をしました。

年々悩み増える

戸別収集を求める声は年々高まっています。市の65歳超の高齢化率は24.7%、2年前比1.73ポイント上昇し、「うちの地域はみんな70歳超で大変」。収集体制の変更で「午後からの回収が増え、動きがとれない」。働く人からは「出勤前にごみを出せず、職場まで持っていく」や「当番の日には休んだり、遅刻で対応」などの悩みが増えています。

地域間のばらつき

その結果、ご近所の話し合いがつかずに「やむを得ず戸別収集をしているところ」が2カ所(答弁)、自治会が有料や地域通貨で個々に戸別収集を代行しているところもあります。

「こうしたリアルな実態をつかみ、市として検討を急ぐべきだ」と追求しました。地域間のばらつきに対する市の見解はありませんでした。

希望の半数は却下

ステーションまで持ち出せない高齢者、障がい者向けにサポート戸別収集体制があります。昨年4月にスタートし7月現在、申請者総数110件で実施は54軒。

条件が、65歳以上の要介護度2以上か身体障害者手帳の1級、2級の一人暮らしまたは全員同条件の世帯で、近隣、親族の協力がいない。と、厳しすぎるため半数しか認められず、申請を控える人もいます。

粗大ごみで先行する自治体も

兵庫県下41自治体のうち可燃ごみの戸別収集は、併用を含め4自治体大勢は川西市と同じステーション方式です。しかし、粗大ごみについては重くて運べないと12自治体が戸別収集を実施しています。

島田市では「65歳以上、一回3個まで」でスタートし、現在「一般家庭も一個だけ」無料で戸別収集するまで広げるとの自治体も生まれています。

今から計画的に

戸別収集は、一気に全部切り替えることは不可能です。高齢化の進展などをにらんで、必要な人のサポート戸別収集を拡大するとか、せめて粗大ごみに広げるとか、「ちよつとがんばったらできるところ」を増やす。一方で、中期的見通しをもって、藤沢市のようにモデル地区を設定して、いまから実証実験し、市民と行政が智慧を出し合い前へ進めることが重要です。トップである市長の構えが問われます。

虐待DV対策は

だれもが虐待・DVの被害をなくしたいと思っておりますが、実際には後を絶ちません。市の答弁では、昨年度の通報数は高齢者虐待36件、児童虐待31件、配偶者暴力の相談延べ196件。通報しないケースも多数あると思われまます。

福祉、医療の総合窓口を

「これは病院では使えない、介護保険で」など、医療、介護、障がい者に関する各種制度への対応が複雑化。いくつもの窓口を行き来させられ、高齢者、障がい者には大きな負担になっています。

個人の尊厳を守り、家族を応援する「医療福祉総合窓口の設置とコーディネート職員の配置」を提案しました。

いま「市役所」の出番

虐待をするのは、家族、連れ合いのほか施設の職員であったりします。私は、福祉や医療の相談窓口をしっかりもち、住民の方々と保育所、障がい者施設、高齢者施設と連携する。こういう、システムなり人間がちゃんと配置されているか質問しましたが、答弁がありませんでした。

民生委員さん等が地域でご苦労され、ご近所の助け合いもされていますが、最後に役所はきちんと支援するよ、という責任の所在が明確であってこそ、住民の方々も力を十分発揮できます。

黒豆のつぶやき

一の鳥居駅。ゆうに3階建て分はあるホームまでの長い階段。能勢電鉄との懇談でエレベーターの設置などを要望しました(裏面参照)。

後日、一の鳥居の利用者と懇談していると「エレベーター1基いくらする？」の質問。「約1億5000万円です」と私。

すると、その彼は「エレベーターも良いが・・・」といいながら「300万円のアルバイトさんを2人配置すれば年間600万円。10年間で6000万円。毎日やなくてもいい。これならすぐでき、いま、困っている人が助かる」。

目からうろこ。人がいたら階段昇降機もすぐ使え、困っている人の手助けもでき、こどもや女性、障がい者、高齢者の安全・安心につながる。人件費はムダやない。人間は財産や。「費用対効果」の言葉で削り取られ、評価されなくなった大切なものを改めて思い起こさせてくれる一言街づくりは、人なり!

地域まるごとバリアフリー

高齢者も障がい者も元気いきいきの川西へ



税金をじゃぶじゃぶつぎ込む「中央北地区開発」のような大型のムダを省いて「元気いきいきのまちづくり」を。「財政が厳しいから」とムダを放置し福祉を切り捨てる動きに断固反対。身近な要求実現にも全力投球しています。(黒田みち)

「お風呂はごちそう」「心と体を温める」

“ふれあい入浴” 存続に奮闘

「高齢者の交流の場の提供」などを目的にした一の鳥居などの「入浴サービス」と「ふれあい入浴事業」が、延べ約6万人に利用され、喜ばれています。市は、この事業の廃止を昨年11月に提示しましたが、議会は存続を求める二つの請願を採択し、継続されました。

議会では「役割が終わった」(北上議員)など廃止賛成論に対して私は「お風呂はごちそう」

「ここに来るために健康を気づかっている」「助けあってお風呂に入る」などの声を紹介し、「人との交流で心と身体を温め、介護予防にも貢献し、事業目的は十分果たしている」と強調、請願を採択しました。

賛成	日本共産党、公明党、智政会、土田、小山、多久和、倉谷、松田
反対	北上、宮坂、小西、越田、津田、宮路、中礼、上馬、久保



一の鳥居
老人福祉センター

大型のムダを省いて福祉の充実を

「財政が厳しいから」は福祉削減の決まり文句。が、むだな中央北地区開発は聖域です。

例えば、「ふれあい入浴」の事業費は人件費を含め約1700万円。高齢者の「お出かけ促進事業」は同6800万円。

北開発には今期12億円弱。うち、地権者への必要のない借地料1億5千万円だけをやめてもおつりがきます。

駅舎のバリアフリー化を
能勢電鉄と懇談、交渉

「高齢者が気軽に出かけられ、電鉄の乗降客も増える“乗り放題チケット”の発行」や「駅の空き売店の障がい者作業所の作品販売」の提案については、積極的に取り組むとの返事をいただきました。

「一の鳥居駅に時計を」「エキスプレスの増便を」など住民の要望を伝え、改善を求めました。

また、「阪急の切符を買う際、路線名がないので不便」「笹部駅にトイレを」

また、「阪急の切符を買う際、路線名がないので不便」「笹部駅にトイレを」

また、「阪急の切符を買う際、路線名がないので不便」「笹部駅にトイレを」



日本共産党川西議員団として能勢電鉄に10項目の要望を提出。9月17日に懇談、交渉しました。

私(黒田)は、ホームまでの階段が長い一の鳥居駅は高齢者、障がい者にとってもつらく、「老人福祉センター」のある駅であることも考慮し、「エレベーターの設置」と「駅ホームと同じ高さのR173号線沿いに改札口の設置」を求めました。

「大和東に郵便ポストを」
設置に奔走し要望書提出

大和東2丁目の方から「この辺りに郵便ポストが欲しい」。

調べてみたら、たしかに坂道を遠くまでいかないとない。

新しいポストの設置はどうしたらいいか？

さっそく、市役所に問い合わせると、役所は関係ないとのこと。(やっぱり)

川西郵便局に電話をすると「事業部のほうです」。電話をすると「それなら北郵便局です」(はあ～?)

それでも北郵便局に電話。「今、取り込んでいますので」。

携帯に連絡してもらおうことになったが、丸1日たっても連絡なし。

別件で、川西郵便局に出向いたついでに、窓口で「結局、どうしたらいいのですか？」とたずねると、やっと北郵便局から携帯に電話が。「要望書を提出してもらえば・・・」ということで、地域の方と急いで「要望書」を作成。北郵便局に「大和東2丁目と5丁目の間にポストの設置」をお願いしてきました。「現ポストとの距離などを調べ、検討します」と企画室職員さん。ようやく、ポスト設置の要望書提出が終了しました。